

山下肇教授略歴および主要研究業績

その他のタイトル	Lebenslauf und Hauptveroffentlichungen von Prof. Yamashita
雑誌名	独逸文学
巻	35
ページ	9-14
発行年	1991-05-02
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018289

山下 肇 教授 略歴および主要業績

略 歴

- 1920（大正9）年5月2日 東京・目黒・下目黒に生れ、下目黒小学校卒業
- 1933（昭和8）年4月 （東京）府立高等学校（旧制）尋常科（7年制）
に入学，同高等科文科乙類に進学，卒業（1940年）
- 1940—42年（9月） 東京（帝国）大学文学部独逸文学科（戦時下半年繰
上げ卒業）
- 1942年10月—1945年10月 陸軍に応召入隊，第一飛行師団司令部（北海道
帯広）にて召集解除復員（陸軍中尉）
- 1946—50（昭和21—25）年 （旧制）浦和高等学校専任講師，教授（1年
間東大と併任）
- 1949—81（昭和24—56）年 東京大学助教授，教養学部勤務，続いて教授，
大学院出講（人文科学研究科担当），同学部教養学科ドイツ第二講
座担任
- 1964—65年 「東京都各界友好訪中団」（団長阿部知二）の一員として中
国各地を歴訪（約40日間），爾後「日中文化交流協会」会員
- 1967—68年 文部省在外研究員として西独 Marburg に出張（チェコ，イ
スラエルを含む）
- 1969—71年 東京大学評議員に選任（「東大紛争」のさなかの激戦）
- 1971—72年 東京大学教養学部長，併せて入試監理委員会副委員長，入試
実施委員長，学部附属アメリカ研究資料センター長，東大建築委員，
同保健委員，身体障害者入試検討委員等を兼務
- 1974—78年 東京大学教養学部連絡委員，同特別委員
- 1976年8月 初の訪ポ友好団員としてポーランド各地を廻り，後「日本ポ
ーランド協会」設立で常任理事となる
- 1973—77年 「エルンスト・ブロッホ『希望の原理』研究」に対し文部省
科学研究費の五年間継続助成を受く
- 1979—80年 関西大学大学院へ非常勤・集中講義出講

- 1981（昭和56）年4月 東京大学を定年退官，5月東京大学名誉教授の称号を受く
- 1981年4月 関西大学文学部ドイツ文学科教授，大学院担当，関西大学ドイツ文学会会長，大阪府吹田市に移住
- 1982年11月 エルンスト・ブロッホ『希望の原理』翻訳（ほか5名共訳，全3巻白水社刊）により日本翻訳文化賞を受く，後「日本翻訳家協会」理事
- 1987年秋以降 「関西・東大会」（同窓組織）設立発起人，副会長をつとめる
- 1988年9—12月 関西大学交換教授として上海「復旦大学」に出張，中国各地を廻り，学术交流に尽力
- 1990年5月 「大学生協・東京事業連合」の理事長に就任（関東甲信越地区50余大学の生協連合組織，本部は渋谷）
- 1990年10月1—4日 東西ドイツ統一の機にNHKテレビ「20世紀の群像」シリーズ放映で「トーマス・マン」を担当，連続放送
- 1990年10月21日 「河上肇記念会」にて講演「河上先生と私の仕事」，於京都，法然院
- 1991年3月 大阪への惜別をこめて，生れて初めての「書画展」を催す。
大阪梅田「東宝画廊」

この間，慶応大，中央大，立教大，駒沢大等の非常勤講師，更に集中講義として北海道大，東北大，九州大，広島大，高知大，新潟大，静岡大，愛媛大，山口大等へ出講

日本独文学会（IVG会員を含む），ドイツ文学振興会をはじめ18世紀学会，社会思想史学会，大学基準協会，民主教育協会（IDE）等の各種役員，「日本戦没学生記念会」（通称「わだつみ会」）事務局長，常任理事，NHK教養番組委員，東大教養学部教職組委員長，東大生協（駒場地区）理事長等々を勤める。現に日本文芸家協会，日本ゲーテ協会，世界文学会，日中文化交流協会，「アムネスティ・インターナショナル」，河上肇記念会等の会員，日本近代文学館維持会員，大学セミナーハウス（東京）千人会員等

主要研究業績

「広大な研究領域を広く覆う氏の関心が決して散漫にならないのは、一つの核が氏の広い学問的関心を支えているからであろう。それはいわば第二次世界大戦とその敗戦の体験に裏打ちされた民主主義的な、あるいは人間解放のエートスとでもいうべきものであり、この核の上に氏の学問的営為が、更には単なる学術研究の枠内だけに留まらない氏の広い文筆活動、社会的あるいは学内外での能動性が基礎づけられている。」（名誉教授推挙に際しての東大「功績調書」の一節より）

I 主要著作

1. 『カフカの世界』 早川書房 1953
2. 『ドイツ抵抗文学』（佐藤晃一と共著） 東京大学出版会 1954
3. 『ドイツ文学史』（ほか5氏と共著） 東京大学出版会 1955
4. 『大学の青春・駒場』 光文社カッパブックス 1956
5. 『詩人の運命』（ドイツ文学論集） 書肆パトリア 1957
6. 『詩心旅情』（同上） 大和書房 1964
7. 『ふたりの昭和史』（加太こうじと共著、江戸三百年来の家系一族の生活史） 文芸春秋新社 1964
8. 『フランツ・カフカ——現代の証人』 朝日出版社 1971
9. 『大学の日々』 有信堂 1972
10. 『ドイツ文学とその時代、夢の顔たちの森』 有信堂 1976
11. 『東大駒場三十年』 北樹出版 1979
12. 『近代ドイツ・ユダヤ精神史研究、ゲッターからヨーロッパへ』 有信堂 1980
13. 『仙宙軒随想』 広論社 1981
14. 『京の夢大坂の夢』 編集工房ノア 1987

その他、大学・青年学生・教育問題等の評論エッセイ集十数点あり。また潮出版社版『ゲーテ全集』16巻（1980～）の監修、『きけわだつみのこえ、日本戦没学生の手記』遺稿収集編纂監修1959～、『石川道雄詩集』編纂（1965 大和書房）等々

II 論文（近年の未収録稿のみ）

1. ボヘミアにおけるゲーテ. カールスバート, マリーエンバート其他.
『ゲーテ年鑑』第17巻（日本ゲーテ協会） 1975
2. Eine Bibliographie Germania Judaica. 東大教養学部外国語科研究
紀要 第26巻第1号 1978
3. 猶太渉獵拾遺 Eine Bibliographie Germania Judaica II. 東大教養
学部外国語科研究紀要第29巻第1号 1981
4. E. ブロッホ『希望の原理』の成立. 関西大学『独逸文学』第26号
1982
5. 東大教養学部の経験. 関西大学一般教育等研究センター『研究センタ
ー報』第6号 1982
6. 岩波西洋人名辞典増補版. (ドイツ文学関係項目全面担当) 岩波書店
1981
7. エッカーマン問題. 『ゲーテ年鑑』第26巻（日本ゲーテ協会） 1984
8. 平凡社大百科事典（ユダヤ関係人名項目担当） 1984
9. G. ショーレムの精神史的位相. (ショールム『ユダヤ神秘主義』翻訳
巻末の論稿) 法政大学出版局 1985
10. ユダヤ教とキリスト教ヨーロッパ. 『差別とたたかう文化』誌宗教特
集, 明治図書 1985
11. 鳴門板東ドイツ村. 『ノイエ・インフォーマ』誌3回連載, 日本ペー
リンガー社 1986
12. ゲーテ『トゥーレの王』考. 関西大学創立百周年記念論文集 1986
13. プルーノ・タウトと日本. 『ノイエ・インフォーマ』誌4回連載, 日
本ペーリンガー社 1987
14. 上海のドイツ系ユダヤ人（序説I・II・III）. 関西大学『独逸文学』第
31～33号 1987～1989
15. 鐘はなにわか大江戸か——大阪文化論. 上中下『月刊 Asahi』誌
1989, 8・9・10月号
16. 中国とドイツ文化. 『インゲルハイマー』誌 9（秋）号, 日本ペー
リンガー社 1989
17. 『マリク書店のあゆみ』展観について. 関西大学図書館報『籍苑』第

30号 1990

18. 『旧約新約聖書大事典』（ユダヤ関係項目担当） 教文館 1989
19. 大阪文化論つれづれ 関大校友会紙『関大』4, 5, 6, 7, 8月号連載
1990
20. 翔べ、大阪未来文化！ 『関西大学通信』入試特集号巻頭（2月1日号） 1991

Ⅲ 主要翻訳（作家の時代順に配列）

1. G. E. レッシング 『寓話と諷刺詩集』 日本評論社 『世界 古典文庫』
1949
2. A. マグダレーナ・バッハ 『バッハの思い出』 ダヴィッド社 1950
3. ゲーテ 『ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代』 人文書院版 『ゲーテ
全集』 1962
4. エッカーマン 『ゲーテとの対話』 上中下巻 岩波文庫 1968—69
5. ジャン・パウル 『ヴーツ先生万歳』 筑摩書房 『世界文学大系』 1963
6. ハイネ 『浪漫派』 夏目書店 1946
7. ハイネ 『パッヘラッハのラビ』 三修社 『ドイツの文学』 1966
8. トーマス・マン 『主人と犬、幼な児の歌、詩集』 新潮社 『トーマス・
マン全集』 1971
9. トーマス・マン 『太公殿下』 新潮社（同上） 1972
10. リルケ 『聖なる春』 ダヴィッド社 1954
11. ヘッセ 『青春彷徨』 筑摩書房 『世界文学大系』 1957
12. ヘッセ 『ナルチスとゴルトムント（聖母の泉）』 中央公論社 『世界の
文学』 1963
13. St. ツヴァイク 『マリー・アントワネット』 角川文庫 1958
14. St. ツヴァイク 『ジョセフ・フーシェ』 平凡社 『世界教養全集』
1962
15. カフカ 『断食芸人』 新潮社 『カフカ全集（第一次）』 1955
16. カフカ 『変身』 岩波文庫 1958
17. カフカ 『日記』（近藤圭一共訳） 新潮社（同上） 1959
18. エルンスト・ブロッホ 『希望の原理』（ほか5名共訳） 上中下巻

- 白水社 1982
19. G. ショーレム『ユダヤ神秘主義・その主潮流』（ほか3名共訳） 法政大学出版局 1985
 20. アンナ・ゼーガース『第七の十字架』上下（新村 浩共訳） 筑摩書房 1952, 河出書房 1972
 21. アンナ・ゼーガース『死者はいつまでも若い』（ほか3名共訳） 白水社 1953
 22. A. アードラー『現代人の心理構造 Menschenkenntnis』 日本教文社 1957, 潮出版社 1971
 23. ヴァイゼンボルン『炎と果実 Memorial』 岩波書店 1953
 24. ヘルムリーン『第一列』 岩波書店 1955
 25. ボブロウスキー『レヴィンの水車』（石丸昭二共訳） 河出書房 1977 復刊 1990
 26. ボブロウスキー『リトアニアのピアノ』（同上） 河出書房 1980, 復刊 1990
 27. ゲーテ『ファウスト第一部・第二部』（潮出版社版『ゲーテ全集』第3巻), 1991（校正中）

尚、上掲著作(14)の随想集『京の夢大坂の夢』巻末には、NHK放送「人生読本」を含めた、詳しい自筆年譜が付されている。